



洋書輸入協会会報

Vol. 30 No. 2 (通巻345号) 1996年2月

新年賀詞交換会

平成8年(1996年)の新年賀詞交換会は、1月新宿のセンチュリーハイアットで開催された。最終的には72社207名の会員社とゲスト3名を加えた大変盛大な式であった。

司会は、鮮やかな和服姿のB & Tの後藤さんで、やや緊張しながらも6時過ぎに開会を伝えた。当会を主催する文化厚生委員会を代表して高井委員長(紀伊國屋書店常務)より、次の通りの開会の辞で開宴した。

(高井委員長 ご挨拶)

明けましておめでとうございます。

只今ご紹介頂きました紀伊國屋書店の高井でございます。昨年11月より吉本が退任しました関係上、その後任として文化厚生委員長を引き継いでおります。はなはだ頼りないのでありますが、文化厚生委員の各社の皆様にご協力頂き、本日の新年賀詞交換会を無事開催できる運びとなり大変深謝致しております。また、只今司会よりご紹介がありました様に、本日の参加は71社205名で昨年より若干減員したとは言え、お集まりいただきましたことに主催者といたしまして重ねてお礼申し上げます。

さて、我が洋書業界は昨年来様々な事態に直面し、大きくその構造的変革を迫られているのではないかと思います。バブル崩壊後の不況はこの洋書業界をも例外とせぬ状況下にあります。しかしまだまだ他業界に比べますと穏やかでありまして、我々の努力により克服できるものであると信じております。

今年は若干景気の回復の兆しがありますし、我々も競

うべきは大いに競い、そして又親睦を深めながら進めることができれば、洋書業界もより発展できるのではないかと考えます。共に大いに競い新しい時代を切り開いて参りたいと考えております。

どうぞ本日は時間の許す限りご懇親を深めて頂ければと存じます。

簡単ではございますが開催の挨拶と致します。

引続いて恒例の理事長挨拶であったが、海老原理事長(丸善・会長)が体調を崩されたとのことで、突如欠席となり、丸善の中田取締役(理事長代行)が理事長挨拶を代読された。全文は1月号掲載の通り。

ついで、松原紀伊國屋社長より、次の内容の挨拶の後、乾杯の音頭を取られた。

(松原社長ご挨拶)

みなさま 明けましておめでとうございます。

ことは、中国五千年来の占星術によりますと、四緑木星の年で「自然の恵みを受けて豊作となり人心もおちつく」とあります。昨年はまことに多事多難であり実り少ない年でありましたが、「禍福は糾える縄の如し」と言うように、禍を転じて福となすことは、人間のみが出来ることであります。本年は、昨年のことは全て忘れて明るい良い年にお互いしたいものであります。

洋書輸入協会の会員のみなさまの益々の発展を祈念して、声高らかに乾杯をいたしましょう。

目次

新年賀詞交換会	1	うちの会社	4	出版文化史逍遙(2)	7
理事会報告	2	文化厚生委員会だより	4	広 告	8
海外ニュース	2	洋書輸入協会史(104)	5		

しばらく歓談の後、これも近年恒例となった鏡割りを次の6氏によりとりおこなわれました。

寺村（丸善 常務）、池田（紀伊國屋 専務）、
中林（日本出版貿易 社長）、齋藤（UPS 社長）、
山川（ユサコ 社長）、渡辺（洋販 会長）



中田理事長代理の挨拶

以降は、それぞれ歓談・談笑・面談（？）等に花が咲き、話の尽きない時間であったが、8時前、文化厚生委員会の鶴副委員長（東亜ブック・社長）により、元気良く中めめが行なわれ閉宴となった。

以上



恒例の鏡開き

（写真・文化厚生委員会提供）

理事会報告

1月29日（月）

（一）12月分収支報告

1月19日（金）開催の総務委員会で審議の12月分収支について副総務委員長の報告を承認した。

（二）委員会報告

高橋副総務委員長より会員資格変更の推薦文が近々に当該会員宛に発送される件及び、尼子文化厚生委員より新年賀詞交換会の収支報告があった。

（三）選挙管理委員長委嘱の件

先の総務委員会で5月17日開催の総会に於ける役員選挙の選挙管理委員長に昨年同様、㈱トッパンの関野社長を推薦。理事会で承認、同氏宛委嘱の正式依頼をすることとした。

海外ニュース

1995年の出版社の株価指数大きく上昇

株式市場の上げ相場を反映して、1995年のPublishers Weekly 株価指数は前年比23.4%と大幅な伸びを示した。（1994年：612.15 → 1995年：755.26）

ただし、この大きな伸び率もダウ工業平均株価（DJI A）の33.4%アップという極めて高い数値に及ばなかった。

出版社のなかで株価伸び率が最も高かったのは Meredith 社で79.2%のアップ。Magazine 部門での好成果が大きく影響したとのことである。それに続くのは Waverly 社の78.1%アップ。そして Advances Marketing Service 社の70.8%アップ。Advance Marketing Service 社については、最近の2年間で約\$30株価が上がったことになる。その他、McGraw-Hill、Scholastic（両社とも1995年のみで20\$以上の株価上昇）、John Wiley & Sons、Plenum などが顕著な伸びを見せている。

一方、書店の方は出版社ほどの好数字を示すことはできなかったようである。なかでも Books-A-Million は株価23.7%ダウンと大きな低下。Barnes & Noble も年末に急激な下落に見舞われ、結局7.2%ダウンで1995年を終えた。

—Publishers Weekly 1996年1月8日号より抜粋—

“ニューメディア”のどこから利益を引き出すか？

を模索する米出版界

《パブリッシャーズ・ウィークリー誌》'96年1月号によれば、米出版界は、プリントから一転して、ニューメディアへとプロフィットのターゲットを移し始めていると云う。

12月初旬に開催された Paine-Webber Media Conference では、多くの出版社首脳が「ニューメディアには、まだ、色々と問題が多い…」と語るのが聞かれたが、明かに出版社は、ニューメディア事業から何らかの形で利益を引き出そうとしている。問題は、その方法である。

が、「如何にすれば、プロフィットが引き出せるか？」と云う肝腎なクエッションに答えられる者は、多分、いないのではないか…。

Time Inc. の総帥、Don Logan にしてからが、「インターネットからどうやってカネを引き出すかを語るのは、まだ早すぎる…」と云い、なぜなら、「現行のオンライン・サービスで、より質の高い情報が手に入るのだから、この上、情報にカネを払おうとは、誰も思うまい。本当の意味で、商用インターネット上でのパブリッシング・ビジネスが（ビジネスとして）動き出すには、最低、後1、2、年は必要となろう」と語る。そして、氏は、「自分のところでは、マーケット・サイズが明確に把握出来ない内は、この分野でのビジネスを大きく広げることとはしない。勿論、新分野であるからには、継続的に投資は行なって行くが、社の利益となる分野は、今暫くの間はプリント、及び、プリント関連のものである」と結論する。

一方、Reed Elsevier のリーダー、Ian Irvine は、新たに手中に収めた Lex Online service を中心とするニューメディアに関しては、当然強気ではあるものの、「インターネット・ビジネスについては、他の業界がそこから如何にしてして利益を出すかを注意深くウオッチして行く」構えを変えていない。

或る業界通によれば、同社の電子出版物は、インターネットの普及に大きな脅威となるはずだ…と述べている。が、Irvine によれば、過去12ヶ月の業績の推移を見る限りでは、（電子出版物）の利用状況などに“悪影響”は感知されていないと云う。「タダで得られる情報は、ロクなものではない」はずだとも、氏は付言する。但し、

同社のビヘイビアーを注視するかぎり、“全面的にデジタル・メディアへのコミットメント”は、敢えて冒していない。

また、Simon & Schuster の関連会社 Viacom の社長 Frank Biondi によれば、S&S は、今後、電子化をヘビーに押し進めていく構えである。「近い将来、S&S 発行のテキスト・ブックは、全て、冊子体+電子媒体のコンビネーションと云う形で出荷されることになる。特に、コンピュータ関連書籍や、英語の自習書には、“+電子媒体”という形がスタンダードになる」と云う。これは、当然乍ら、ホーム・マーケットに照準を定めているためである。

なお、Boindi 氏は興味あるデータを示してくれた。即ち、今後数年は、売上成長率は10%と強気な設定をしており、因みに、1995年度期の営業粗利率は15%であったと云う。また、過去数年間の投資額は約\$6千万、資産の売却は約\$4千5百万であったと云う。これは、新たな企業戦略を企図した戦略的な体質改善への布石と見ることは出来ないか？ これを裏付けるように、Viacom では、直販店3店を新規に展開している。ここでは、ブックを含む同社製品のフル・レンジを扱っている。

この他、The Tribune Co. では、Soft Key 社とタイアップして、ニューメディア部門へと触手を伸ばしている。また、Reader's Digest 社では、1996年に Website を開設す計画を進めているなどの動きも出ている。さらに、R. R. Donnelley 社では、副社長の Ed Tyler の言によれば、ライフ・マネジメントを中心とする展開でチャレンジする態勢を見せている。

この記事から読めることは、どこの出版社もまだ迷っているようだ、と云うことである。スグそこに見えていよう、財務の面からは見れば、いまいちハッキリしないニューメディア、とりわけ、“インターネットの衝撃波”への対処と、これを奇貨とする積極策への展開による収支は、すぐにはバランス・シートの上には現れそうにもない。

（意訳・文章：USACO Corporation）

うちの会社

エム・アール・アイ情報ネットワーク株式会社

当社は平成3年10月1日付で株式会社三菱総合研究所の情報サービス事業部が分離独立して設立されました。主たる事業は、米国商務省 NTIS（技術情報サービス局）の日本代理店としての業務と、商用オンラインデータベース“Dialine-II”のサービスを行なっています。

洋書輸入協会に加入している NTIS の代理店業務は、もともと1976年（昭和51年）に三菱総合研究所が日本総代理店になってからですから、約20年になります。NTIS が取扱っている米国政府資料は、情報管理学的に言えばテクニカル・レポートですが、業界では「洋書」とみなされており、当時のマスコミにも「三菱総研がグループを代表して洋書業界に参入」などと大袈裟に書かれたものです。三菱総研はシンク・タン

クとして自らの研究に活用するためと、こうした貴重な資料を日本の研究者により一層利用してもらうことが目的で、事業としての利益は余り深く追求しなかったものでした。

その後、1985年（昭和60年）には、米国商務省の許可を得て、納期の短縮や品質の向上を目的として、国内で複写業務を開始しました。さらに、1982年（昭和57年）からは日米間の情報流通格差を解消するために、主要な企業の情報や大学の紀要、政府の報告書などを収集し米国政府へ提供しています。最近では1989、'91年と NTIS の近代化や権限に関する法律が制定され、NTIS も新しい時代へ対応するために、新しい商品開発やサービス向上に取り組んでいます。（徳永記）

文化厚生委員会だより

囲碁同好会打ち初め会レポート

1月8日（木）午後5時30分より、高田馬場囲碁クラブで新年打ち初め会が開催されました。指導は何時も参加してくださる石毛先生（日本棋院七段）。私事ですが、以前の合宿で打って戴いた時（勿論星目）、絶対に困らせたと思ったし、先生も、困ったなあ（これは通り一遍のボヤキですが）とおっしゃりながらも、私共の仲間内なら絶対な筈の手厚く固めた壁が破られました。プロにボヤキを言わせただけで満足、と言うところでした。

一、二局こなした後の新年懇親会では、碁はレベルに関係なく面白い、と専ら囲碁談義に花が咲き、石毛先生の昔話やら、メンバーの自慢話やら楽しい一時でありました。碁は一度覚え、少しづつレベルが上がると面白さが比例して増すもので、NHK杯をみていて、時たま有名プロの次の一手の予想が当たった時の自己満足と、秘めたる誇らしさは楽しき限りです。当会の創始者のお一人である渡辺会長（洋販）のお久しぶりのご参加も嬉しかったし、一局教えて戴きすっかり満足しました。また私事になってしまいましたが、最近の囲碁、将棋熱はサラーマンの間でも高まっているようで、タイトル戦や

公開大局を楽しみにしているファンも多いのに感心します。カルチャー講座用施設を衣替えさせた津久井湖畔の囲碁専門の宿泊施設「コミュニティハウス津久井湖」が人気を集めているそうで、一泊三食付きで¥6,000。既に我々メンバーの方々も利用されているそうで、さすがに愛好家はこう言った情報は見逃さないな、と思いました。因に、百二十人まで宿泊でき、一度に五十人まで対局できる大広間と、三千冊の解説書がそろえてある資料室まであるそうです。

JBIA 囲碁同好会に関して多少残念なことは、新しい会員のポテンシャルは大きいと思われるのにも拘らず、メンバーの高齢化が進むばかり。新会員、特に女性会員を迎えられたら、乾杯の際に出席者一同で祈念したように当会がますます発展し、本当に楽しい会になるだろうに、と一人勝手に夢見ています。そして、自分でも勝てる相手ができるのではないかと。

最後になりましたが、幹事の村山さん（ゲート書房）のご苦勞に対して感謝を以て、開催の報告と致します。

（R. A. 記）

洋書輸入協会史 (104)

洋書輸入協会顧問 相 良 廣 明

124 洋書輸入協会専用事務所の設置と事務専任者の雇用

124.1 協会事務所を設置する前の情勢

洋書輸入協会に専用事務所を設けよう、専任の事務担当者を置こう、という考えはこれまでに何度も提案され、その都度議論になり、そして見送られきた。昭和41(1966)年現在までは、協会創立以来、丸善にその事務所があり、丸善の社員がその事務を担当していた。具体的に言うと、丸善の洋書仕入課長の田辺 寛氏の机がその事務所であり、田辺 寛氏が事務の担当であった。

どんな協会でも、事務所を持ち事務員を置けば、それなりの経費がかかる。その経費は協会である以上、協会の会費で賄わなければならない。勿論協会が、協会として、収益を上げられる事業を経営するという方法はある。しかし洋書輸入協会に関する限り、そのような事業の経営は、何度も試行錯誤を繰り返してみた経験からしても、ほんの僅かな足しになる程度の収入しか得られないということは分かっていた。事業収入は個人生活でいえば、ささやかな小遣いの足しになる程度の収入は得られても、お手伝いさんを雇うに足りる程の収入は、逆立ちしても得られないということである。

昭和35(1960)年に例を取って協会の収支を調べてみよう。昭和36(1961)年の協会定時総会で報告された昭和35年度の決算報告書によると、

協会本部収入		関西支部収入	
会 費	443,600	会 費	68,500
入 会 費	32,000	出 先 会 員 費	11,000
雑 収 入	319	除く本部よりの還付金	
除く繰越金		除く繰越金	
計	475,919	計	79,500

この収入を得るための会員数は58社、会費は月額700円、年8,400円、完全に納入されて年総額487,200円で、これで事務所を構え、事務員を雇うことが不可能であることは一見して分かる。

では会費を値上げすれば良いではとないかという議論も常に出て来たが、当時の洋書全体の売上高は、丸善一社の総売上高に遠く及ばず、大手といわれる丸善、紀伊國屋の洋書の売上上げは、それぞれの社の総売上げの三分

一から四分の一程度のシェアである。次に位置する5乃至10社前後の他はすべて小企業乃至零細企業といって良く、洋書輸入協会々費の月額700円(当時)ですら高いという声が常々つきまっていた。

月額700円の会費が高いか安いかを考えてみると、他の事務所を持ち事務員を雇っているあらゆる協会と比較すれば、非常に安いということが断言出来る。また月額700円が、これを負担する大方の会員にとって主観的に高いか安いかを考えると、決して安くはない。

一つの例を挙げて見よう。当時の古書籍商で作る古書籍商組合は、中小企業協同組合法によって従業員30人以上の店は会員になれないことになっており、丸善と紀伊國屋、教文館の三社を除いては全古書籍商は従業員30人以下であった。そのため、この三社は正会員になれず、準会員という扱いであった。しかし古書籍商組合は、神田に堂々たる古書会館を持ち、立派に組合を運営している。その訳は、数が多いことと、新書と利益率が違うこと、古書会館を使用する古書市から手数料収入を得ることが出来るなど、洋書輸入協会の会員とは基本的に違った立場に立っている。

124.2 情勢の変化

洋書輸入協会は、上記のような経緯で専用事務所を持たずに推移してきたが、昭和33(1958)年下期から昭和36(1961)年下期に及ぶ岩戸景気、昭和39(1964)年のオリンピック景気、昭和40(1965)年下期から始まるいざなぎ景気に影響を受け、更に大学の新増設のブームのお蔭を蒙って、洋書輸入業のマーケットも拡大して、ささやかながら協会会員の数も増加し、それぞれの会員の売上高も若干の上昇をみてきた。

このような情勢を背景にして、洋書輸入協会の雰囲気にも変化が生じ、殊に若手の勇ましい社長などが活発に発言するようになった。その主張の一つが「いつまでも丸善におんぶするな」ということである。いつまでも丸善に事務所と事務員の経費をおんぶしているから、他の社は丸善に対して言いたいことも言えなくなる。多少の会費の負担が増しても、会員自身の面倒は自分で見ようではとないかという考えである。

丸善の方は、それも主として司社長の考え方のように

あったが、洋書輸入協会の面倒は丸善が見るんだという自負心があり、そのために相当の経済的負担を敢えてしても事務所及び事務を引き受けていたようである。しかし時代も変わってきたし、何よりも協会の世話一切を引き受けてきた丸善の田辺 寛氏が、昭和42年3月末で同社を退職されるという予定が、丸善の考え方を変え、昭和41年の4月から事務所の設置に積極的に動き始めたように推察される。

124.3 事務所設置案が具体化し始める

昭和41(1966)年5月10日の総会直前の理事会で、前回の4月25日に東光堂の石内氏から提案があった事務所設置案を審議した。理事長代理桜井氏がまとめた所は次の通り。

先般来、洋書輸入協会として事務所を持つべきだという意見が出されている。これには、一挙に設置するか、何年計画かでやるかという二つの案があり、大勢としては後者が強い。前回の理事会で提案された石内氏の意見は前者であり、出来るだけ早く設置し、事務所が無いために今まで出来なかったことを一刻も早くやるべきであるということである。後者の意見は、協会の現在の会員数、可能な各社の負担力を勘案した上で、蓄積の期間を見つづ着手すべきであるということ。

それから事務所設置に伴う問題として非常に重要なことは、事務担当者の件である。丸善としては、同社の元商品課長の寺久保氏をその候補として推薦する。

以上の件を理事会としては、目前に控えている総会にはかった上で、小委員会を設けて検討しようということとなった。

昭和41(1966)年5月16日付、JBIA No. 229の定時総会の報告では、次のように述べている。

「事務所の設置に関する件は、未だ確たる成案を得ないが、事務所の家賃、維持費、事務長、女子事務員の給料、賞与等を大まかに計算して、平均会員一社当たり、3,000円位の会費となる見込み。いずれ理事会で案を作り御検討を願うこととなろう。」

以上の文ではいささか舌足らずであるが、要するにこの総会で、洋書輸入協会の事務所の設置の検討に入ることが提案され、承認を受けたことと共に、具体案についてはその作成を理事会に一任されたということである。

124.4 新事務所設置要綱案

事務所設置案は、先ず昭和41(1966)年6月1日付で、

事務局の田辺氏により叩き台が作製され、次いで6月27日の理事会で、東光堂石内氏の研究結果が発表され、審議を経た上で、7月1日付で「洋書輸入協会新事務所設置要綱案」として発表された。

これによると、事務所設置後の事業は、会報の発行などを含む15項目、専従職員は2名、事務所の広さは8～10坪、敷金・備品などを含む当初資金が約60～70万円、人件費その他の毎月の経常費が30万円である。この資金の調達方法は次の通り。

- (1) 設立資金は各会員1口1万円を負担(寄附金若干)。
- (2) 経常費は現在の会費月額1,000円を次のようにする。

A案 一率5,000円、別に約10社から維持会費として5,000円以上。(理事社を念頭に置いたもの)。

B案 10,000円、5,000円、3,000円の3種類。

以上の設置案の中の最大の難点は、月会費の大幅値上げであり、月会費は実に現行の3～10倍となる。この案に対し理事会としては、各理事が全会員を手分けして分担し、案の趣旨を説明して納得して貰おうということとなり、早速にとりかかった。

7月15日の理事会で、各理事の説得結果を集計した所次の通り。(1)事務所設置に反対 1社 (2)時機尚早 2社 (3)5,000円の会費を負担できる 27社 (4)3,000円であればOK 13社 (5)未だ返事が貰えてないが、5,000円でOKしそうな所 6社、3,000円であればOKしそうな所13社、であって問題点は未だ沢山残っているとはいえ、事務所設置の前途に明るい希望をもたらしたことは確かであろう。

8月4日の理事会には、関西支部長の旭屋の和田氏が出席、関西支部の事務所設置に関し次のような情勢の報告と意見の開陳があった。

- (1) 関西支部員は、本部事務所設置については90%賛成。
- (2) 本部事務所が設置され、盛んな活動を始めると、関西支部の仕事も増えてくる。従って関西支部にも事務所が必要になってくる。
- (3) 以上により、本部に事務所を設置する資金計画には、是非関西支部にも事務所を設置することを前提として貰いたい。

この関西支部長の意見は、理事一同に当然のこととして受け入れられ、今後はこの意見を充分反映させつつ諸事を進行させることとなった。なお事務所設置の準備作業は、この後も紆余曲折を経ながら翌昭和42(1967)年にかけて延々と続いていく。(続く)

英語辞書の歴史—ジョンソン以前—〔2〕

丸善・本の図書館 鈴木 陽 二

◆揺籃期の英語辞書

英語辞書編集の歴史は剽窃行為の連続である、という意味のことをランドウは述べているが(シドニー・I・ランドウ著/小島義郎他訳『辞書学のすべて』)、揺籃期における英語辞書は、まさに剽窃・模倣を積み重ねることによって発達した、と見ることができる。

前回ふれたように、最初の英語辞書といわれることになったコードリーの辞書はトマス・トマスの『羅英辞書』を下敷きにして編まれたものであったし、そのトマスの辞書もクーパーの『ラテン語と英語の宝庫』を簡約にしたものであった。

上述のようにコードリーの辞書は最初の英語辞書という栄を担ったのであるが、この辞書の模倣の様子をもう少し詳しく見てみることにする。彼は自分の辞書を編纂するにあたって、1595年に刊行された Edmund Coote の“English Schoole-Master”という文法書・祈禱書に付帯されていた単語集の語彙1,500とその定義(簡単なものであったが)の90パーセント以上を使用した。そして、さらにトマスの羅英辞書から見出し語と語義を借用したが、その結果コードリーの辞書における見出し語で40パーセント以上、また語義の大部分がトマスの辞書の模倣で構成されることになった。このように、この辞書はラテン語辞書への依存度が非常に高いことから最初の英語辞典として位置付けることを疑問視する学者もいて、むしろ1552年に刊行された Richard Huloet “Abecedarium Anglo-Latinum”が英語の見出し語にラテン語の語義と英語の説明が与えられていることから、この辞書を最初の英語辞典とする説もあるという。しかしランドウも述べているように、最初の英語辞書を確定することは難しいし、また、あまり実りのある議論ともいえないのではないだろうか。

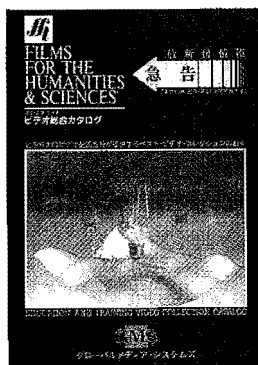
ともあれ、コードリーの辞書は、ラテン語、ギリシャ語、ヘブライ語から英語に移入した難解な外来語に婦人や非専門的な一般人(unskilfull persons)向けに平易な英語で語義を付したもののようで、そのことが長々としたタイトルの中に表示されている。そういう意味でこの辞書は初期の英語辞書に共通した性格の難解語辞典の

系統に属するものであるが、難しい語として「聖書、説教、そのほかの場所で聞いたり読んだりする」と挙げているところを見ると、特に信仰に関連した難解語の解説が重要な目的であったのだろう。下敷きにしたトマスの羅英辞書は1,200ページもの大きなものであったが、コードリーの辞書は八つ折り本で2,500の見出し語を収録した120ページの単語集のようなものであった。ちなみに、この辞書はシェイクスピアと同時代に刊行されたものであったが、彼には使用されなかったと推定されている(加島祥造『英語の辞書の話』)。しかし、シェイクスピアによって初めて使用されたラテン語系の英語としては antipathy, catastrophe, critical, emphasis, pathetic など挙げられるということであり、彼の作品の中で使用された語彙数は、変化形を除いても21,000語という豊富なものであったといわれている。これはチョーサーの8,430語、ミルトンの7,000~8,000語、ホーマーの9,000語に比べて圧倒的に豊かな語彙数で、ルネッサンス時代における英語語彙の急激な膨張を反映しているということである。これらの語彙の増加はラテン語を中心とした外国語の流入によるもので、16世紀における借入語は全語彙の3分の1にものぼったという(永嶋大典『英米の辞書』)。ちなみに、ランドウによると15世紀における英語の全語彙は現在の5分の1以下であったと記している。

さて、18世紀に入ると Hohn Kersey “A New English Dictionary” (1702) を初めとして、Nathan Bailey “An Universal Etymological English Dictionary” (1721) や “Dictionarium Britannicum” (1730) などの画期的な英語辞書が生まれた。そして、これらの優れた英語辞書の製作が積み重なって、1755年にはいよいよジョンソンの辞書が誕生することになるのであるが、コードリー以後カージーの辞書の出現に至るまでの17世紀における100年間の、豊かであった英語辞書編纂の流れを、いましばらくたどってみることにしたい。(参考図書：小島義郎『英語辞書物語』/ランドウ著・小島義郎他訳『辞書学のすべて』/長嶋大典『英米の辞書』/加島祥造『英語の辞書の話』)

世界最高水準のビデオライブラリーを お届けします

日頃のご愛顧に感謝申し上げます。当社は、より良い映像文化の担い手としてグローバルに映像ビジネスを展開しております。とりわけ教育的な見地から精選された番組の数々を皆様にお届けします。



最新刊情報

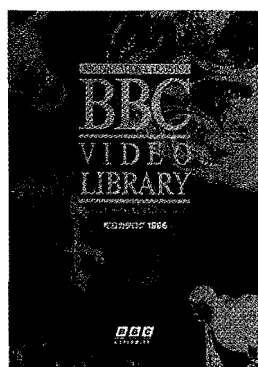
急 告

(全タイトル'96年1月より出荷可能です)

北米最大のビデオ配給会社が提供するベスト・ビデオ・コレクションの数々。

FILMS FOR THE HUMANITIES & SCIENCES®

※エフ・エフ・エイチはFILMS FOR THE HUMANITIES & SCIENCES®の略称です。



世界に冠たるBBC(英国放送協会)制作の BBC VIDEO LIBRARY 最新装カタログ1996年版

最新刊タイトル118点、1,073万円が新たに加わって、更にボリューム・アップ。また、「オープン・ユニバーシティ」「ベスト・オブ・ビジネス・テレビ・シリーズ」「エグゼグティブ・ビデオ・セミナー」3つの分野が新たに登場、話題作が満載です。全点入荷済、既納可。総数683タイトル、総額7,183万円。世界の放送文化をリードするBBCならではの格調の高さと内容の充実度は定評のあるところ。

●お問い合わせは下記へ

GMS

BBC(英国放送協会)ワールドワイド社 日本総代理店

株式会社 グローバルメディア・システムズ

〒105 東京都港区浜松町2丁目5番5号 松井ビル

(営業本部) TEL.03-3433-4375
FAX.03-3437-1778

1996年2月 通巻第345号 洋書輸入協会
〒103 東京都中央区日本橋1-21-4 千代田会館5階20号室

編集者 神田 俊二

☎(03) 3271-6901 FAX. (03) 3271-6920

印刷所 藤本綜合印刷株式会社